

微量汚染物担当(平成19年度)

食品中の各種有害物質検査

平成19年度は、次に示す各種有害物質などの検査を行いました。

残留農薬検査

市内流通の国内産農作物18種68検体、輸入農作物5種10検体、輸入牛肉10検体、輸入豚肉10検体、輸入鶏肉10検体、冷凍食品(農作物)19検体及び厚生労働省「日常食品中の汚染物質摂取量調査」による加工食品13検体等、計143検体(延べ8,784試験項目)を検査しました。その結果、農薬の残留基準違反は認められませんでした。

中国産冷凍食品中の農薬検査

中国産冷凍ギョウザから高濃度のメタミドホスが検出され、健康被害が発生した事例を受け、中国産冷凍食品80検体3,321項目について、メタミドホス等の農薬の緊急検査を行いました。また、飲食したところ気分が悪くなった等として、市民から届け出があった苦情品135検体5,603項目について、農薬の検査を行いました。その結果、直ちに健康被害につながる濃度の農薬は検出されませんでした。

食品汚染物質検査

1 PCB検査

カネミ油症事件で問題になったPCBについて、中央卸売市場に入荷した魚類14種20検体の検査を行いました。その結果、PCBの暫定的規制値を超えたものはありませんでした。

2 メチル水銀検査

中央卸売市場南部市場で行った魚類の総水銀検査で、暫定規制値(0.4ppm)を超えた2種2検体のメチル水銀検査を行いました。その結果、暫定的規制値を超えたものはありませんでした。

動物用医薬品検査

疾病予防や治療または肥育の目的で使用されている動物用医薬品の食品への残留が問題化しており、次の物質について検査を行いました。

1 抗生物質

市内流通の養殖魚介類6種10検体について、オキシテトラサイクリンの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。また、中国産魚介類7種7検体及び原材料が中国産のはちみつ3検体についてオキシテトラサイクリン、テトラサイクリン及びクロルテトラサイクリンの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。

2 合成抗菌剤

養殖魚介類6種10検体、中国産魚介類7種7検体、市場流通の牛肉10検体、豚肉10検体及び鶏肉10検体についてスルファジミジンなど28種類の合成抗菌剤の検査を行った結果、残留基準値を超えたものはありませんでした。また、原材料が中国産のはちみつ3検体について、クロラムフェニコールの検査を行い、中国産魚介類7種7検体についてはクロラムフェニコール及びマラカイトグリーンの検査を行いました。その結果、クロラムフェニコール及びマラカイトグリーンが検出されたものはありませんでした。

3 寄生虫用剤

輸入牛肉10検体及び輸入豚肉10検体についてイベルメクチン、モキシデクチン及びエプリノメクチンの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。また、輸入豚肉10検体及び輸入鶏肉10検体について、フルベンダゾールの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。